

第2 事業の概要

1 法人運営

(1) 学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）」の推進について

中期計画の2年目となる令和2年度において、計画の目標実現のために「教学」、「人事」、「施設」、「財務」部門の次の4つの目標と、8つの重点項目の達成に向けて積極的に取り組んだ。

<目標>

- ①教育研究活動の改善及び質の向上
- ②業務運営の効率化を目的とした事務組織・人事体制の見直し
- ③施設設備整備計画による環境の整備
- ④財務内容の改善による経営基盤の強化

<重点項目>

- ①教育研究活動の改善及び質の向上を図る。
- ②組織運営、管理体制を整備し、ガバナンス機能の改善・強化を図る。
- ③人事体制の整備を進め適正化を図る。
- ④施設設備の整備を進め、教育研究環境の充実を図る。
- ⑤財政基盤の安定化を図る。
- ⑥設置校の将来構想について検討する。
- ⑦法人内の各学校間の連携を強化する。
- ⑧法人及び盛岡大学の周年事業を実施する。

(2) 令和2年度学生・生徒・園児数について

法人全体での学生・生徒・園児の総数は2,602人であり、収容定員2,500人を102人上回った。しかしながら、学部別で見ると盛岡大学栄養科学部30人減、盛岡大学短期大学部96人減、盛岡大学附属松園幼稚園30人減と収容定員を下回った。

(3) 盛岡大学短期大学部の入学定員変更について

盛岡大学短期大学部の入学定員を、令和3年度より現行の150名から120名に変更することを決定した。

(4) 幼保連携型認定こども園の開設について

厨川幼稚園と松園幼稚園を統合し、幼保連携型認定こども園を開設することについて決定した。(令和4年4月開設予定)

(5) 組織改編について

- ア 学校法人盛岡大学情報管理室を設置した。(令和2年9月1日)
- イ 学校法人盛岡大学ウエルネスセンターを、令和3年4月1日に設置することを決定した。
- ウ 広報戦略本部及び広報戦略室を設置し、入試・広報センターを入試センターに改編した。(令和2年4月1日)

(6) 財政健全化への取り組みについて

学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）」の重点項目「財政基盤

の安定化」について、引き続き財政の健全化へ向けて取り組んだ。
(財務状況の詳細については、P 27「第3 財務の概要」参照)

(7) 既存施設の改修・整備等について

- ア 砂込キャンパスにおいて、遠隔授業のための学内無線 LAN、ネットワークの整備及び4教室のエアコン設置工事を行った。
- イ 附属高校において、エアコン用受電設備増設工事と普通教室16室、保健室等のエアコン設置工事及びギガスクールに関連して、校内ネットワークの整備を行った。
- ウ 全施設において、補修・補強工事を行い教育環境の維持に努めた。

(8) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応について

- ア 学校法人盛岡大学危機管理本部会議及び新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応を行った。
- イ 「新型コロナウイルス感染症に対する本法人の対応方針」「学校法人盛岡大学の新型コロナウイルス感染症に対する〈活動基準〉」等を策定し、感染対策の徹底を図った。
- ウ サーマルカメラや空間除菌装置の設置、施設内のアルコール消毒、マスク着用の徹底等の感染予防対策を講じた。

(9) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う学生への経済支援について

- 新型コロナウイルス感染症対策に伴う盛岡大学及び盛岡大学短期大学部の学生への経済支援を実施した。
- ア 遠隔授業環境整備等支援金給付
 - イ 経済困窮者向け授業料減免
 - ウ 後期学納金納付期限の延長

(10) 寄付金募集について

- ア 新たに新型コロナウイルス感染症対策寄付金の募集を行った。
- イ 学校法人盛岡大学70周年・盛岡大学開学40周年記念事業に向けた募金計画を立てた。

2 設置する各学校の運営

(1) 盛岡大学

◆文学部

英語文化学科

【定員充足力】

- ア 盛岡大学附属高等学校との接続の取り組みの第一歩として、附属高等学校での出前講義を行い、英語文化学科に附属高等学校から一定程度の入学者を確保することができたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、高大接続のための新しい試みを行うに至らなかった。
- イ 前期は遠隔授業という新たな難題の中で、「学科の特長の明確化」をはかり、定員充足力の強化を十分に図ることができなかった。

【教育改革力】

- ア マルタ海外研修を実施したが、参加者が4名と少なく、加えてカモーション

大学の短期留学（参加予定者 11 名）がキャンセルとなり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた。

イ TOEIC の受験状況は、4 年生は 900 点台 1 名、800 点台 2 名、3 年生も 800 点台 2 名、700 点台 2 名という結果であった。現 2 年生、1 年生には有望な学生やモチベーションの高い学生がいた。

日本文学科

【定員充足力】

本年度はコロナ禍のため、学科主体の春季高校訪問は中止となったが、あらゆる機会をとらえ、本学科の特色等について説明するなどし、72 名の新入生を確保することができた。

【教育改革力】

ア 前期開講科目の「日本語学演習（古典語）Ⅰ」「漢文基礎演習」は遠隔授業が中心であったため、例年より古文・漢文の基礎学力の強化は難しかったが、プレゼンテーション力の強化を含め、各演習科目で可能な範囲で強化を図った。

イ 本年度提出された卒業研究論文から、第 13 回となる日本文学科賞の大賞 1 名、奨励賞 3 名を選出した。その結果について学生に周知し、卒業研究への取り組みの強化を図った。

【学修支援力】

ア 各クラス担任や卒研指導教員が学生との対話を意識して指導し、留年率は 16.0%となり、前年（18.7%）比では若干向上した。

イ 本年度はコロナ禍のため、日本文学会春季大会及び研修旅行が中止となり、感染予防に留意した研究会活動以外では、学生間の対話・コミュニケーションがより活性化する具体的な方策について検討するに留まった。

社会文化学科

【教育改革力】

ア グループワーク、プレゼンテーションなどを通じて、自己認識力を高めた。

イ 海外・国内フィールドワークの情報収集等については、コロナ禍で実施できなかったが、基礎ゼミ、入学前教育については引き続き検討を行った。

児童教育学科

【教育改革力】

ア 令和 2 年度入学生カリキュラムに「社会人コミュニケーションⅠ・Ⅱ」およびレクリエーション・インストラクター養成課程関連科目を設置した。

イ コミュニケーション力を「共感性」「アサーション」「チームワーク」の各尺度で測定する質問紙を作成、令和 2 年 4 月・7 月に 1・3・4 年次を対象に調査を行った。

ウ カリキュラムマップの改訂に着手した。

エ 新型コロナウイルス感染症防止のためスクーリングを中止したが、主要 5 教科のテキスト学習、課題図書読解とレポート作成について、担当教員グループを定め、採点結果・コメントのフィードバックを行った。

【地域貢献と情報発信力】

ア 幼稚園免許法認定講習及び幼稚園免許状特例科目の開講については、コロナ感染拡大防止を考慮し中止した。

イ 滝沢市 LSP 事業は中止となったが、岩手県スクールトライアル事業(後期)では、1~4 年生 11 名が 3 校で延べ 26 回の活動を行った。

ウ 九戸村の「小学校学習支援」では、村内 5 校に 3 年生 7 名が各計 7 回訪問しサポートにあたった。また公民館に集まった中学生を対象とした「冬の寺子屋学習会」には 1~4 年の 9 名が 1~3 日間参加した。

【学修支援力】

ア 教員採用試験対策特別講座(後期)は、令和 3 年 1 月~3 月に 22 科目 71 コマが開講され、全学科で 86 名の学生が参加した。児童教育学科教員は 12 名が 14 科目 36 コマを担当し、教職教養の科目では両学部全学科の学生を対象に講座を行った。

イ 令和 2 年度の本学科の就職内定率は 97.9%であった。小学校教員採用試験合格率をみると、令和 2 年度は 46.2%(合格者 24/52)であるのに対し、令和 3 年度は 67.2%(43/64)となり、目標の 50%を大幅に上回った。

◆栄養科学部

【教育改革力】

平成 29 年度以降の入学生に適用される新カリキュラムを実施した。

【定員充足力】

ア 入試制度・教育内容・国家試験対策・就職支援について、高校訪問、入試説明会、オープンキャンパスにおいて広報を行った。

イ 入試・A0 入学試験、附属高校推薦入学試験、入試特待生、編入学試験など新たな入試制度を利用して入学した学生の修学状況を調査し、入試制度の改善策の検討を行った。

【教育改革力】

ア 令和 2 年 3 月に実施された第 34 回管理栄養士国家試験の結果を分析し、改善策を検討した。

イ 専任教員および外部講師による国家試験対策講座を開講し、また全学年を対象に模擬試験を実施した。

【学修支援力】

ア 総合選抜型入学試験、学校推薦型入学試験合格者に対して入学前教育を実施した。

イ 入学時実力診断テストを実施して入学者の到達度を測り、学生の習熟度に応じた教育・指導を行った。

ウ 特定給食実習室(給食経営管理実習室 B107)の排気口等の整備を行い、衛生管理・作業管理の面において法令に定められた環境に適合させた。

(2) 短期大学部

幼児教育科

【定員充足力】

ア 県内外で、本学の受験実績のある高校を中心に指定校の指定を行った。

イ 令和 3 年度からの入学定員を 150 名から 120 名に変更した。

ウ 定員変更以後の社会状況を考慮しながら、引き続き定員の適正について検討を進める。

【教育改革力】

附属高校対象に初年次教育のあり方について検討を進めた。

【組織マネジメント力】

ア 認証評価受審に向けて検討を行うとともに、組織体制を整えた。

イ 附属幼稚園との連携事業については、コロナ禍で予定していた事業ができなかった。

【地域貢献と情報発信力】

コロナ禍でオープンキャンパスや他県への広報活動が制限されたが、新たに3月にオープンキャンパスを実施した。

(3) 学生部

【教育改革力】

ア 主体的学修への転換の一つ目として、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業を全学的に促進し、当該年度開講科目のうち目標の6割を上回る63.1%を達成した。

イ シラバスの改善を図るため作成要領の改定を行い、科目担当教員にはシラバスにおいて学生に対し事前事後学修に係る具体的な内容や方法、それにかかる学修時間を明示するよう求めた。

ウ 主体的学修への転換の促進状況とその効果を検証するため、学生アンケートにより「学生の授業関連学修時間の調査(学修時間と読書量)」を実施した。

エ 学修成果の把握・可視化の取り組みを推進するため、達成度自己評価システムなどを利用して、自分の学修成果を学生に理解させた。

オ 厳格な成績評価は、学修成果の可視化を行うための基本になるものであることから、既に導入しているGPA制度の見直しを行った。

【学修支援力】

ア 経済的支援体制(「給付型授業料減免制度」「盛岡大学奨学会貸与奨学金」「経済支援入試特待生制度」等)については、経済的事情により修学が困難な学生が支援を受けられるよう見直しながら充実を図った。

イ 身体及び心のケア等については、学生がメンタルヘルスに関する専門的な助言や援助を受けられ、学生生活全般についても、気軽にアドバイスを受けられるように「なんでも相談」「相談室」の相談時間や人員増等体制を充実させた。

ウ 教職員が連携した学修支援体制の一つとして、WEBポータルシステムを有効活用した。

エ 学生生活安定のための取り組みを行った。

- ・ 中途退学防止への取組
- ・ 奨学金、表彰制度の充実
- ・ 学友会、部活・サークル活動活性化の支援
- ・ ボランティア活動の支援 他

(4) 就職センター

【学修支援力】

ア 就職率(3月末現在)

盛岡大学	文学部	94.9%
	栄養科学部	100%
盛岡大学短期大学部		100%

大学全体の就職率が100%には届かなかったものの、ハローワークの職員の協力、学生部、相談員など教職員の協力により、上記就職率を達成することができた。コロナ禍の中の就職活動に戸惑いを感じている学生に対して、より一層の就職センターのきめ細かい対応を行った。

イ キャリアサポートプログラム

前期は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、大学・短期大学部ともに前期に実施した対策講座が6月まですべてオンライン、その後、対面と併用した。

後期より対面形式で実施できた講座もあったが、特に関東圏から講師による講座については、新型コロナウイルス感染防止の観点からオンデマンド形式とした。

理解度、参考度、満足度を5段階評価式で測るアンケートを実施した結果、満足度を測る設問に対して、受講してよかった、と回答した割合が90%であった。

ウ インターンシップ支援

前期は、新型コロナウイルス感染拡大により県内3大学によるインターンシップが中止となり、実習先の確保が困難であったため、今年度新設のインターンシップ科目の開講ができなかった。

エ 本学合同企業説明会・企業学内説明会

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、企業学内説明会は、ほとんどが取りやめとなった。7月からは対面授業が再開されるにつれて徐々に学内説明会も開催できるようになり、開催回数は28回、参加学生数は55人であった。

本学合同企業説明会は、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じたうえで、二部構成で開催するなど、本学合同企業説明会を例年とは異なる形態で行ったが、会場内での混乱もなく、盛会裏に終えることができた。また、学内説明会については、9月以降の開催回数は26回、参加学生数は52名であった。

オ 事業所訪問の強化

新型コロナウイルス感染症拡大に配慮して事業所訪問及び電話にての対応を実施した（企業訪問20社・施設訪問29園・電話対応16社）。各企業とも短い時間での対応となったが、情報収集・意見交換ができた。

(5) 入試センター

【定員充足力】

〔盛岡大学〕

令和3年度の入学者数

・文学部 327人（前年度 367人；定員 320名）

英語文化学科 54人（前年度 71人；定員 60名）

日本文学科 72人（前年度 75人；定員 60名）

社会文化学科 73人（前年度 66人；定員 60名）

児童教育学科の入学者は、児童教育コース 87人（前年度 114人；定員 100名）、保育・幼児教育コース 41人（前年度 41人；定員 40名）

・栄養科学部栄養科学科 84人（前年度 71人；定員 80名）

・編入学者数 11名

（英語文化学科 1名（前年度 2名）、日本文学科 2名（前年度 1名）、社会文化学科 2名（前年度 1名）、児童教育学科 6名（前年度 6名）、栄養科学科 5名（前年度 5名）

〔盛岡大学短期大学部〕

令和3年度の入学者数

・幼児教育科の 82人（前年度 99人；定員 120名）

入学状況は、平成 28 年度 152 名の定員数充足を最後に、平成 29 年度 126 名、平成 30 年度 108 名、令和元年度 107 名、令和 2 年 99 名と定員未充足が続き、5 年連続の定員割れとなった。

【地域貢献と情報発信力】

- ア Web 出願システム導入に向け業者選定を行い、「post@net」のシステムを選定した。小規模入試の Web 出願については、令和 4 年度入試の状況を確認しながら、組み入れを検討することとした。
- イ Web 出願システム導入に向け現行の入学試験要項等をホームページへの掲出に向けた検討を行い、令和 5 年度入試から完全ペーパーレスにできるよう検討を継続する。
- ウ 入試特待生制度の見直し、入試制度改革について検討を進めた。

(6) 図書館

【学修支援力】【組織マネジメント力】

- ア 新型コロナウイルス感染症対策によりラーニング・コモンズは閉鎖したが、図書館利用講座を動画で行うなどの学修支援体制を整備し、図書館利用講座を適宜視聴することを可能とし、講座内容も均質化され、確実に図書館の利用法を伝達できる術を獲得できた。
- イ アクティブラーニング及び共働学習活動を継続するため、飛沫防止シートを座席間に設置するなど新型コロナウイルス感染症に係る感染対策を講じたうえで、ラーニング・コモンズを限定的に再開した。
- ウ 盛岡大学図書館ウェブサイトトップページに新着資料の紹介欄、学内限定データベースに紀伊国屋書店学術電子図書館サービス KinoDen を加えるなどサイト構成を見直した。
- エ 国立国会図書館が提供するデジタル化資料送信サービス導入により、絶版等の理由により入手困難となった資料 150 万点以上の閲覧を可能とした。
- オ 学生が使用するパソコンを更新、システム化し、学修環境を整備した。このことにより、自学学習のためのセキュアなパソコンを供給する重要な段階を達成することができた。

【地域貢献と情報発信力】

- ア 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、ビブリオバトル全国大会が中止されたが、大学生についてはオンラインによる大会開催が決定したことから、学生(教職員)へ参加を呼び掛けた。
- イ 開館情報等の変更をスピーディーに周知するため、試験的に Twitter を導入し短期間に本学学生を中心に 200 人近いフォロワーを集めることができた。また、アカウント運用ポリシーを策定し、公式 SNS としての運用を開始した。

(7) 地域連携センター

【地域貢献と情報発信力】

- ア 岩手県、県内市町村との包括提携または共同事業の受託により、共同研究及び共催事業を継続的に実施した。
- イ 新型コロナウイルス感染症の影響から各種事業が中止または縮小となり、前年度に比べ講師派遣等は実施していない。また、市当局及び市議会も同様に事業の中止等により学生を交えた意見交換会や懇談会は実施できなかった。
- ウ 新規連携事業の意見交換として、玉山地区に新設される「道の駅」建設に伴う、

本学の協力体制の可能性について協議を行った。

エ 民間企業との新たな提携事業について、意見交換の場を設けることができた。

(JA いわて中央、トヨタ自動車、あいおい損保盛岡支社)

オ 民間団体との包括提携または共同事業の受託による共同研究及び共催事業について、新型コロナウイルス感染症の影響から各種事業が中止または縮小となり、学生ボランティアの要請も激減したが、一部派遣することができた。

カ 陸前高田市連携事業市民公開講座は例年通り実施できたが、矢巾町との新たな提携事業策定に向けた協議については、新型コロナウイルス感染症対応を優先させるため、次年度に延期した。

キ 国立岩手山青少年交流の家との協定事業・提携事業へのボランティアについては、事業規模は縮小したが、学生ボランティアを派遣できた。

ク 県内高等学校で行われている「総合的探究の時間」に合わせ助言者、研究発表コンテストの審査員等の派遣要請に対し、教員を派遣することができた。

ケ 提携を行っている行政団体からの各種の審議会委員、専門家委員会への教員の派遣を行った。

コ いわて高等教育コンソーシアムとの連携については、事業規模は縮小したが、各種会議等へ関係教職員を派遣した。

サ 公開講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業中止とした。

(8) 教員養成サポートセンター

【学習支援力】

ア 基礎学力テスト（特別講座）を行い、基礎学力向上の動機づけ及び対策を講じた。

イ 外部業者から情報を得て、学生に発信した。

ウ 教員採用試験対策講座（外部講師・本学教員）、模擬試験、教員養成サポートセンターセミナー・勉強会・個別相談指導を強化した。外部業者から情報を得て、学生に発信した。

【組織マネジメント力】

教職課程の自己評価システムの構築に向けて方向性の検討を進めた。

(9) 情報システムセンター

【教育改革力】

ア 新教育指導要領を踏まえた、数理・データサイエンスに関して、他大学の状況などは随時入ってくるが、それを教育課程の見直しへ公開する場や、検討する場が得られなかった。

イ 情報セキュリティについては国立情報学研究所や、警察などからの情報提供を学内に周知してきたが、受け身的なアナウンスが多く、発信型の教育はあまり実施できなかった。

ウ セキュリティポリシー等については法人本部や第三者も交え、検討を続け、ある程度形とすることが出来た。

【学習支援力】

ア 認証基盤、Microsoft365（旧 Office365）は予定どおり導入でき、コロナ禍の学修に寄与できた。

イ 学内 Wi-Fi はほぼ全普通教室、階段教室に設置でき、また学生食堂やラウンジの Wi-Fi も充実することができた。

ウ Eduroam の導入は来年度上半期を目指す。

【組織マネジメント力】

ア 法人本部への情報管理機関の設置、情報セキュリティポリシー、電子文書取扱規程の作成については具体的な検討を重ねた。

イ 総務部や学生部とは都度連携をとりオンラインでの会議の開催方法の試行、着座位置記録の推進を図った。

(10) 広報戦略室

【定員充足力】

広報体制の検討と実施

ア 新体制となり各学科からの情報提供を数多くホームページに掲載した。

イ 各学科からの要望を広報戦略に生かし展開できた。

ウ 新型コロナウイルス感染症に伴い6月、8月の対面型オープンキャンパスは、実施できなかったが、Web オープンキャンパス、「mini 施設見学会」を実施し、9月には対面型オープンキャンパスを実施した。10月にも「mini 施設見学会」を実施した。

エ 短期大学部について3月に予約限定のオープンキャンパスを実施した。

オ 大学9月～10月北東北、宮城県214校訪問、短大部8月～9月岩手県中心に116校訪問を実施した。

カ 大学案内、短大案内を令和3年3月に発行した。

ホームページリニューアル実施

ア 学生募集ページとリンクさせるために進学情報会社大手4社によるコンペを実施し、受注先が決まり作業に入った。

イ 4月にTOPページと受験生応援サイトを先行しオープンさせた。

ブランディング方法の検討と実施

ア 広報誌「moridialog」Vol. 1を10月に発行し、後援会、卒業生、企業、公共団体に配付した。vol. 2を令和3年6月発行予定。

イ TV番組は新型コロナウイルス感染症のため実施できなかった。

(11) 盛岡大学附属高等学校

ア 入学者の定員確保に努める。

入試会場を例年通り本校、都南、宮古の3会場とした。宮古会場の受験者数は、1名（昨年4名）のみであった。関東地区で入試相談会を行う計画であったが、コロナ禍のためオンラインで実施した。

オープンスクールの参加者は592（H29）、594（H30）、531（R1）、610（R2）で今年は大幅に増加した。

志願者数については、下記のとおり推薦志願者・一般志願者ともに増加した。しかしながら入学者については、予想以上に私学専願者が多く公立高校の入試倍率が過去最低を更新するなか、歩留まりが5.8%にとどまり結局定員割れとなった。

	29年度	30年度	31年度	2年度	3年度
推薦志願者	107	137	127	117	125
一般志願者	636	594	275	379	392
入学者	241	181	153	173	147

イ 教育課程の改善を検討、実施する。

昨年度からの検討課題であったコースの見直しに踏み切り、令和3年度より高大連

携進学コースを立ち上げた。新コースが中学生に好意的に受け入れられ、29名の専願者を確保できた（最終的に35名の入学者）。

ウ 新学習指導要領に対応した教育改善の検討を進める。

新学習指導要領が令和4年度から学年進行で実施されるにあたり、教育課程の見直しが急務となり、県立高校の視察を行うとともに、新教育課程検討委員会を立ち上げた。

エ 高大連携を充実させるとともに、高大接続改革に備える。

例年通り年2回（7月と3月）の連携に関する協議会を開催した。教育系大学進学コースへの授業（子ども学、教育事始め）については、昨年度の反省を下に、本校でシラバスを作成し、事前ガイダンス、事後の成果のまとめ（プレゼンテーション）、成績評価に高校の教員も入る等の改善を図った。

高校のオープンスクールでの盛岡大学見学は、4年目を向かえ、第1回40名（保護者12名）、第2回は4名（保護者1名）の参加であった。

入試状況については、3年生の在籍者数が昨年度の224名から169名と激減したことから、附属高校推薦枠では、大学に18名（昨年29）、短期大学部7名（昨年同数）合格となり、大学については大幅な減少となった。最終的には一般受験を含め大学に28名（過年度卒1名含む）、短期大学部に7名、計35名が入学した（昨年51名）。

オ 留学制度等特色ある教育活動に取り組む。

今年度も本校の留学制度を利用する生徒はいなかった。生徒募集にもつながっていないので来年度以降は特色から外す方向である。

本校の特色としての野球・柔道などの部活動の強化を図った。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、野球部は夏の甲子園代替大会では準優勝、秋季県大会は3連覇した。柔道部は、昨年に続き団体・個人2名が全国選手権大会の出場権を獲得した。

陸上長距離では一関盛岡間駅伝競走で初優勝（一関学院が不出場）という好成績を収めた。

カ コンプライアンスの徹底を図る。

コンプライアンス遵守に係り、毎月の定例職員会議の席で規範意識の向上を図るため、職員の輪番によるコンプライアンス講話を行った。また、不祥事防止に関する通知や関連事案の新聞報道については、即時に増刷し全職員に配布するなど、各自の意識向上に役立てた。

残念ながら非常勤講師による不祥事案（ハラスメント行為）があった。年度末に外部講師を呼んでハラスメント研修を行い、非常勤講師に対しても今年度初めの打ち合わせの際に資料を配布し、伝達講習を行った。

年度始めと12月にかけて年2回の全職員の個別面談を実施し、一人ひとりの勤務状況、心身の状況の把握に努めた。

キ 生徒の安全面等環境に配慮した施設設備の改善を検討する。

エアコンの電源工事をを行い、1階の保健室、校長室、事務室に設置した。また、年度末に急きょ新型コロナウイルス感染症に関する県の予算により、各教室のエアコン設置工事が行われた。ICT環境についても順次整備を進めた。

(12) 盛岡大学附属厨川幼稚園

ア 入園児の確保に努める

- ① 令和2年度の在園児数は87名（定員75人）であった。
- ② 新型コロナウイルス感染症防止のため、未就園児サークルは人数を限定して実施した。登録者32名中、11名が入園につながった。
- ③ イメージキャラクターを園児募集要項、未就園児チラシ、入園のしおり等に活用した。
- ④ 預かり保育専任教員及び満3歳児補助教員を配置した。

イ 特別支援を要する子どもへ柔軟に対応する

- ① 園務分掌にて特別支援教育担当を配置した。
- ② 自閉症園児に専任教員を加配した。
- ③ 短期大学部と共同で実施予定の特別支援教育研修会は、新型コロナウイルス感染症防止のため実施しなかった。

ウ 教育の質の向上を図る

- ① 処遇改善キャリアアップ研修に参加した。
- ② 厨川幼稚園教育課程を策定した。
- ③ 盛岡大学・短期大学部と共催の公開保育研究会は、新型コロナウイルス感染症防止のため実施しなかった。
- ④ 平成31年度、令和元年度、公開保育研究会研究集録を発刊した。

エ 施設の環境整備を図る

- ① 劣化による保育室床の修繕、FF式ストーブの更新、各保育室の冷房の整備については、令和4年度認定こども園新園舎建設が決まったため未実施となった。
- ② 私立学校振興費補助金による緊急環境整備に対し、新型コロナウイルス感染症防止対策として空間除菌装置を購入した。

(13) 盛岡大学附属松園幼稚園

ア 園児の定員確保に努める

- ① 令和2年度の在園児数は59名（定員75人）であった。
- ② 新型コロナウイルス感染症の関係で少ない日程での開催となったが、0歳児～2歳児対象の子育て広場「まんまくらぶ」、未就園児サークルを実施した。
- ③ 預かり保育担当者を配置し、幼稚園代休日にも預かり保育を行った。

イ 教育の質の充実・教員の資質向上を図る

- ① 一人一人の育ちとクラスとしての育ちの両面をとらえて、クラス便りやDVDを制作して普段の様子を保護者会で伝えた。
- ② 新型コロナウイルス感染症の関係で、地域の小規模老人施設、福祉施設での直接の交流はできなかったが、手紙やDVDによる交流を行った。
- ③ 予定した回数は消化できなかったが、特色ある事業であるラクビー教室、ジョイキッズ（英語教室）を行った。
- ④ 幼児体操「ちからこぶ」が浸透し、週1回のペースで体をいっぱいに使っての運動の楽しさを学ぶことができた。
- ⑤ 特別支援を要する園児について、個別の支援計画をつくることでその子の育ち

の様子、次への課題、具体的な対応が見え対処ができた。

ウ 幼大短二園で連携し教育の充実と教員の資質向上に努める

- ① 実習指導はもちろんのこと、大学ゼミの学生のフィールドワークとしての教育、研究の場として実習生を受け入れた。
- ② 大学教員、学生とともに「まんまくらぶ」を実施し、連携して子育て支援活動を行った。
- ③ 新型コロナウイルス感染症により規模を縮小した行事もあったが、学園祭（おひさままつり）、イベント運動会では、盛岡大学生の授業の一環として参加し、幼大連携の取り組みを行い、保護者にも伝えることができた。
- ④ 子育て講演会では、ウエルネスセンターと連携をとり、新型コロナウイルス感染症の最新情報と予防についての講演会を開催した。

エ 園舎内外の環境整備、安全衛生管理を行う

- ① 令和3年度に厨川幼稚園の園児たちを受け入れるために、保育室の整備、トイレの修繕を行った。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策によりいつも以上に清掃消毒を行った。
- ③ 毎週、遊具の安全点検を行い、必要な補修を適宜行った。

以上

3 役員会等の開催状況

(1) 理事会

開催月日	議 事 内 容
4月23日	新型コロナウイルス感染症により中止
5月28日 (1回目)	①令和元年度事業実績報告及び決算について②評議員の選任について
5月23日 (2回目)	①盛岡大学短期大学部の入学定員変更について②盛岡大学短期大学部学則の一部改正について③学校法人盛岡大学旅費規程の一部改正について④新型コロナウイルス感染症に伴う学生への経済支援について
6月23日	①法律顧問契約を締結することについて
7月30日	①幼保連携型認定こども園を新設することについて②盛岡大学附属高等学校学則の一部改正について③新型コロナウイルス感染症対策学生支援寄付金を募集することについて④盛岡大学栄養科学部教育職員の任用期間の延長について
8月27日	①盛岡大学附属幼保連携型認定こども園（仮称）建設の基本設計業務委託契約の締結について②盛岡大学文学部教育職員の採用について
9月17日	①学校法人盛岡大学情報管理室を設置することについて
10月29日	①令和2年度予算の第1次補正について②令和3年度学校法人盛岡大学事業計画の骨子及び予算編成方針について③学校法人盛岡大学資産運用基準及び基準外運用の手続き等に関する規程の一部改正について
11月26日	①令和2年度予算の第2次補正について②学校法人盛岡大学保健管理センター（仮称）を設置することについて③職員の懲戒処分等について④盛岡大学文学部教育職員の採用について⑤盛岡大学栄養科学部教育職員の採用について⑥議案取下げ⑦新園舎建設期間中の厨川幼稚園の代替え施設について
12月17日	①任期満了に伴う学校長の選任について②盛岡大学附属幼保連携型認定こども園（仮称）新園舎基本設計について
1月28日	①盛岡大学文学部長の選任について②盛岡大学短期大学部長の選任について③盛岡大学文学部教育職員の採用について
2月26日	①役員賠償責任保険の更新について②盛岡大学文学部教育職員の教授昇格者の決定について
3月23日 (1回目)	①評議員の辞任について
3月23日 (2回目)	①令和2年度予算の第3次補正について②令和3年度事業計画及び予算について③盛岡大学学則の一部改正について④栄養科学部栄養科学科の教職課程（栄養教諭一種）認定を取り下げることにについて⑤学校法人盛岡大学創立70周年・盛岡大学創立40周年記念募金を行うことについて⑥学校法人盛岡大学就業規則の一部改正について

(2) 評議員会

開催月日	議 事 内 容
5月28日	①令和元年度事業実績報告及び決算の報告について②理事の選任について③盛岡大学短期大学部の入学定員変更について④盛岡大学短期大学部学則の一部改正について⑤新型コロナウイルス感染症に伴う学生への経済支援について
7月30日	①幼保連携型認定こども園を新設することについて②盛岡大学附属高等学校学則の一部改正について③新型コロナウイルス感染症対策学生支援寄付金を募集することについて
10月29日	①令和2年度予算の第1次補正について②学校法人盛岡大学資産運用基準及び基準外運用の手続き等に関する規程の一部改正について
11月26日	①令和2年度予算の第2次補正について②学校法人盛岡大学保健管理センター（仮称）を設置することについて③議案取下げ④新園舎建設期間中の厨川幼稚園の代替え施設について
3月23日	①理事の選任について②評議員の選任について③令和2年度予算の第3次補正について④令和3年度事業計画及び予算について⑤盛岡大学学則の一部改正について⑥栄養科学部栄養科学科の教職課程（栄養教諭一種）認定を取り下げるについて⑦盛岡大学名誉教授の称号を授与することについて⑧学校法人盛岡大学創立70周年・盛岡大学創立40周年記念募金を行うことについて

(3) 常勤理事による案件審査会議

理事会議題及び同報告事項を纏め上げるための予備討議を行い、コンセンサスを図っている。

4 監査の実施状況

- (1) 令和2年度の監査報告書は下記のとおりである。
- (2) 監事2名のうち、1名は週4日出勤し常勤監査体制を高めている。
- (3) 例月の監査の実施状況は以下のとおりである。
 - ア 理事会及び評議員会には原則として毎回2名出席し業務の執行状況を監査している。また、案件審査会議についても後日、協議資料をもとに開催状況を監査している。
 - イ 財務状況に関する監査の充実という観点から、監査法人監査には常勤監事が立会いしている。
 - ウ 日常は、現預金・重要保管物等の実査及び公印管理状況をはじめ、各種コンプライアンスの遵守状況等について監査を実施し、業務の改善を促している。
 - エ 決算監査は関係法令、学校法人会計基準、寄附行為に基づいて行っている。

令和3年5月18日

学校法人盛岡大学

理事会 御中

評議員会 御中

学校法人盛岡大学

監事 阿部 勉



監事 八重樫 広樹



監 査 報 告 書

私たちは、学校法人盛岡大学の監事として、私立学校法第37条第3項および学校法人盛岡大学寄附行為第15条第1項第1号から同第3号に定める職務を次により行いましたので、同第4号により本報告書を提出します。

1. 監査の方法及びその内容

法人の業務については、監事監査規程の基準に準拠し、理事、内部監査室、その他の職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境整備に努めるとともに、理事会等の重要な会議に出席し、理事、職員等からその職務の執行状況についての報告を聴取しました。

また、重要な決裁書類を閲覧し、業務の妥当性を検討しました。さらに学校法人から財務状況の報告および説明を受け、計算書類および財産の状況を監査したほか、公認会計士の会計監査の都度立会いし、その監査結果の報告を受け計算書類の妥当性を検討しました。

2. 監査の結果

上記による監査の結果、本法人の令和3年3月31日現在の計算書類は、学校法人会計基準に準拠して経営状況および財政状態を適正に表示していること、並びに同日の財産の状況は別添財産目録記載のとおり適正に表示していることを認めます。

また、本法人の業務または財産に関し、私立学校法第37条第3項第5号に定める文部科学大臣または理事会および評議員会に報告すべき不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

5 主な行事等

令和2年	4月1日	辞令交付式
	4月3日	盛岡大学及び盛岡大学短期大学部入学式（中止）
	4月8日	附属高等学校入学式
	4月13日	附属厨川幼稚園入園式
	4月13日	附属松園幼稚園入園式
	5月14日	大学・短期大学部火災避難訓練（中止）
	6月19日	大学・短期大学部地震避難訓練（中止）
	6月15日	創立記念日礼拝（69周年）（於細川泰子記念礼拝堂）（中止）
	8月13日～16日	夏期休暇
	12月29日～1月3日	年末年始休暇
令和3年	3月1日	附属高等学校卒業式
	3月12日	附属厨川幼稚園修了式
	3月13日	附属松園幼稚園修了式
	3月17日	盛岡大学及び盛岡大学短期大学部卒業式
	3月25日	退職辞令交付式

※上期職員研修会等の教職員の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。